調査・報告

歯科学学生の歯周病学基礎実習に関わる実態調査

鈴木丈一郎^{1,2} 中島啓介^{1,2} 國松和司^{1,2} 高柴正悟¹
 原 宜興^{1,2} 和泉雄一¹ 横田 誠¹ 鴨井久一*
 小田 茂² 福田光男² 川浪雅光² 野口俊英**

¹平成 15 ～ 16 年度日本歯周病学会教育委員会

²平成 17 ～ 18 年度日本歯周病学会教育委員会

*平成 15 ～ 16 年度日本歯周病学会理事長

**平成 17 ～ 18 年度日本歯周病学会理事長

(受付日：2007 年 2 月 7 日 受理日：2007 年 5 月 14 日)

A survey of periodontal basic training for dental students

Joichiro Suzuki^{1,2}, Keisuke Nakashima^{1,2}, Kazushi Kunitatsu^{1,2}, Shogo Takashiba¹,
 Yoshitaka Hara^{1,2}, Yuichi Izumi¹, Makoto Yokota¹, Kyuichi Kamoi*,
 Shigeru Oda², Mitsuo Fukuda², Masamitsu Kawanami² and Toshihide Noguchi**

Japanese Society of Periodontology Board of Education 2003-2006

(Received : February 7, 2007 Accepted : May 14, 2007)

Abstract : In clinical dentistry, dental students have to master not only their knowledge of dentistry, but also their dental skills and communication skills with patients. The purpose of this study was to collect basic data on periodontal basic training at Japanese dental colleges and dental faculties at universities for considering an OSCE. A questionnaire regarding the contents and status of the training was sent to 29 Japanese Society of Periodontology directors in charge of periodontology training at dental colleges and dental faculties at universities. Twenty-six of the questionnaires were returned and the data were analyzed statistically.

In regard to the time of start of periodontal training, most dental colleges and dental faculties at universities start the training from the fourth grade and less frequently from the fifth grade. The number of training classes varied widely from two to 23. Practice hours were distributed from 90 to 360 minutes, with an average of 34.5 hours. The contents of the training at most dental colleges and dental faculties at universities included examination of the periodontal condition and physical diagnosis, X-ray diagnosis, brushing instructions, scaling, periodontal surgery, occlusal adjustment and temporary fixation. The most important subjects for an OSCE are brushing instructions, followed by scaling and root planing.

Explanation of the disease condition and brushing instructions to periodontal patients have recently been emphasized as important subjects. The subject of periodontology in OSCE is considered to be very important and

連絡先：鈴木丈一郎

〒 230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3

鶴見大学歯学部第二歯科保存学教室

Joichiro Suzuki

Department of Periodontics and Endodontics, Tsurumi University School of Dental Medicine.

2-1-3 Tsurumi, Tsurumi-ku, Yokohama 230-8501, Japan

E-mail suzuki-j@tsurumi-u.ac.jp

shows the future direction of periodontal education. Nihon Shishubyo Gakkai Kaishi (J Jpn Periodontol) 49 : 162-174, 2007.

Key words : dental students, periodontal basic training, survey

要旨：臨床歯学では、知識だけでなく技能および患者対応を含めた総合的な習得が求められている。そこで今回、今後の歯周病学実習の内容を検討するために各大学の歯周病学実習で行っている OSCE や臨床実地試験問題の実態を把握することを目的とし、全国 29 歯学部・歯科大学から、臨床前の歯周病学の臨床基礎実習内容と実習運営の現状に関してアンケート調査を行った。調査対象者は、歯周病学を担当する日本歯周病学会理事 29 名で、歯周病学実習の実態把握のための無記名式の質問票を、平成 15 年 12 月に郵送し、平成 16 年 3 月 10 日までに回収を行った。その結果、29 校のうち、4 年次に実習を開始するところが最も多く、次いで 5 年次に開始していた。実習の回数は、2 回～23 回まで幅広い分布を示していた。また、1 回の実習時間は、90 分から 360 分の間に分布しており、総実習時間の平均は 34.5 時間であった。実習の内容としては、過半数の大学が実施しているのは、歯周診査、ペリオチャート・レントゲン診断、ブラッシング指導、スケーリング、歯周外科、咬合調整、暫間固定であった。OSCE 形式の課題としては、ブラッシング指導が最も多く、次いで、スケーリング・ルートプレーニングであった。最近の傾向としては、歯周病の病状説明かブラッシング指導に重点が置かれている。OSCE における歯周病学の課題は、今後の歯周病学教育の方向性を示すものであり、非常に重要性が高いと考えられる。

キーワード：歯科学学生、歯周病学基礎実習、実態調査

緒 言

臨床歯学では、知識だけでなく技能および患者対応を含めた総合的な習得^{1)～5)}が求められている。特に、共用試験^{6)～21)}の CBT や OSCE の実施が決定し、臨床技能の到達目標をより明確にすることが重要視されている。OSCE の内容は、各大学の歯周病学の実習内容²²⁾から大きく逸脱することがなく、また歯周病学の学術的な意義にも合致している必要がある。そこで今回、歯周病学実習における OSCE 課題や国家試験の実技試験の実施について検討するうえでの基礎情報として活用することを目的とし、全国 29 歯学部・歯科大学に対し、臨床前の歯周病学の臨床基礎実習内容と実習運営の現状をアンケート調査した。

材料および方法

調査対象者は、全国 29 大学歯学部・歯科大学の歯周病学を担当する日本歯周病学会理事 29 名であり、歯周病学実習の実態把握のための無記名式の質問票(図 1)を、平成 15 年 12 月に郵送し、平成 16 年 3 月 10 日までに回収を行った。配布・回収は、日本歯周病学会事務局を通じて行い、調査に回答した理事は、26 名(回答率 90%)であり、これらのデータは、無記名のまま連番にて入力し、分析を行った。

結 果

歯周病学基礎実習の開始時期については 29 校のうち、4 年次に実習を開始するところが最も多く、次いで 5 年次に実習を開始していた(図 2)。実習は 2 回から 23 回まで幅広い分布を示していたが、7～8 回が 6 校、13～14 回がそれぞれ 8 校と 2 つのピークを示した(図 3)。歯周病学基礎実習に費やす総時間数は 2 時間から 65 時間ときわめて広い範囲を示したが、25～50 時間の間に 20 校が含まれ、平均 34.5 時間だった(図 4)。1 回の実習時間は 90 分から 360 分の間に分布していたが、180 分とするものが 17 校と大半を占めていた(図 5)。歯周病学実習に携わるインストラクター一人あたりの学生数は 3 名から 14 名と、幅広い分布を示した。しかし、インストラクター数は単一のピークを示し、最頻値はインストラクター一人あたり 6 名の学生で、また 5 名から 9 名とするところが 21 校を占めた(図 6)。歯周病学基礎実習の内容については、過半数の大学で歯周組織診査、チャート判断・レントゲン診断、ブラッシング指導、スケーリング、歯周外科、咬合調整、暫間固定を実施していた(表 1)。歯周組織診査実習は 25 校で実施しており、その内容については、ポケット測定、臨床的アタッチメントレベル(以下 CAL と略す)測定、動揺度測定を、過半数の大学で実施していた(表 2)。ペリオチャート判断・レントゲン診断実習は 20 校で実施しており、レントゲン読影・スケッチを、過半数の大学で実施していた(表

歯周病学実習に関するお尋ね

1. 下記の実習項目について、実施しているか否かに○をつけ、実施しているものについては、内容と時間、使用機材、インストラクター数についてお答え下さい。

①口腔内診査 — 実施している、実施していない

内容：ポケット測定（ ）、アタッチメントレベル測定（ ）
 付着歯肉診査（ ）、動揺度診査（ ）、コンタクト（ ）
 その他（ ）

時間：_____時間

使用機材：プローブ（_____製）

模型（_____製）

その他（_____）

インストラクター数（学生_____名に対し、インストラクター_____名）

②ペリオチャート・レントゲン診断 — 実施している、実施していない

内容：（_____）

時間：_____時間

使用機材：（_____）

インストラクター数（学生_____名に対し、インストラクター_____名）

③細菌検査 — 実施している、実施していない

内容：細菌培養（ ）、ELISA（ ）
 その他（ ）

時間：_____時間

使用機材：（_____）

インストラクター数（_____名）

④口腔内写真撮影 — 実施している、実施していない

内容：写真撮影（ ）
 その他（ ）

時間：_____時間

使用機材：（_____）

インストラクター数（_____名）

⑤ブラッシング指導 — 実施している、実施していない

内容：染め出し（ ）、ブラッシング（ ）、歯間ブラシ（ ）、
 フロッシング（ ）

使用しているインデックス（_____）

おもな使用ブラシ（_____）

使用しているインデックス（_____）

時間：_____時間

使用機材：（_____）

インストラクター数（_____名）

⑥スケーリング — 実施している、実施していない

内容：模型実習（ ）、学生相互実習（ ）、患者実習（ ）、シャープ
ニング実習（ ）

時間：_____時間

使用機材：使用しているスケーラー（_____）

使用している砥石（_____）

使用している模型（_____）

その他（_____）

インストラクター数（_____名）

⑦咬合調整・暫間固定

時間

⑧歯周外科処置（プタ下顎骨によるフラップ手術）

時間

⑨SPT

時間

OSCE課題：

1) 貴科歯周治療実習において行われているOSCEテーマについてお知らせください。

課題：

一般目標：

① 到達目標：

② 場所：

③ 術式：

④ 資源：

⑤ 実習に必要な所要時間：

⑥ 評価時間：学生一人の資料について_____分。

⑦ 評価基準：

2) 国家試験実地課題についてアイデアがあれば教えてください。

課題：

① 一般目標：

② 到達目標：

③ 場所：

④ 資源：

⑤ 術式：

⑥ 実習に必要な所要時間：

⑦ 評価時間：学生一人の資料について_____分。

⑧ 評価基準：

3) その他、国家試験実地について考えがあれば教えてください。

(例)

医療面接課題等の課題？

診断？

口頭試問？

歯周病学・歯周治療学実習アンケート

下記の項目についてお伺いします。

歯周病実習について

1.) 行っている期間と回数を教えてください。

例：1 2月初旬から1月末まで 計6回

2.) 1回あたりの時間数はどれくらいですか？

例：1時限100分で4時限分400分

3.) 実習内容（スケジュール）を教えてください。

例：1) 口腔内診査

2) ブラッシング指導

3) スケーリング

4) 咬合調整・暫間固定

5) 歯周外科処置（ブタ下顎骨によるフラップ手術）

6) SPT

4.) 実習帳は独自で作成したものですか？

はい

いいえ

5.) 実習評価をどのように行っているか教えてください。

例：出席点 5点X6回＝30点

小テスト 5点X5回＝25点

口頭試問 5点X5回＝25点

OSCE形式 5点X4回＝20点

計 100点（60点以上合格）

OSCE テーマについて

1. テーマの種類

2. 方法・評価

3. 実施時間

国家試験試験実地テーマ

図1 アンケート項目

3). 細菌検査実習は22校が実施しておらず、実施している大学は4校であった(表4)。口腔内写真撮影実習は22校が実施しておらず、実施している大学は4校であった(表1)。ブラッシング指導実習は23校で実施されていた。その内容はブラークの染め出し、ブラッシング指導、歯間ブラシ、フロスを、過半数の大学で実施していた。使用しているインデックスは、O'LearyのPCRが過半数を占めた(表5)。スケーリ

ング実習は回答のあったすべての大学で行われていたが、シャープニング実習は、14校の実施であった(表6)。歯周外科実習は21校で実施されており、その内容は、模型実習がほとんどであり、実際には5校が模型とブタ顎骨の両者を用いた実習を実施している。フラップ手術は歯周外科実習を行っているすべての大学で実施していた。過半数の大学が実施しているのは、歯肉切除術、フラップ手術、遊離歯肉移植術であった

図2 歯周病学基礎実習の開始時期

図3 歯周病学基礎実習の回数

図4 歯周病学基礎実習の総時間数

図5 歯周病学基礎実習1回あたりの時間

図6 インストラクター一人の担当学生数

(表7)。その他の実習項目についての実施状況で過半数の大学が実施しているのは、咬合調整、暫間固定であった(表1)。

各大学で実施されているOSCEでの歯周病関連の課題について回答があったのは、質問票の返送のあった26校のうち22校であった。アンケート調査を行った時点では、実際に実施されているOSCEの課題としては、ブラッシング指導が最も多く、80%以上の大学で実施されていた。次いで多いのは、スケーリング・ルートプレーニング、歯周病の病状説明・医療面接であった。その他、歯周組織診査、歯周外科・縫合法、器具の選択を挙げた大学もあった(表8)。

現時点では撤回されたが、調査当時は平成18年度より国家試験に実技試験を導入することが決定してい

た。それを受けて、国家試験での実技試験の課題についてアンケートを行ったところ、14校から回答が得られた。実技試験の課題として、ほとんどの大学からスケーリング・ルートプレーニングが挙げられた。次いで、歯周組織診査と歯周外科の基本的な手技がそれぞれ3大学から提案されていた。他にも、歯垢染色チャート作成、歯周外科時の器具選択、ペリオチャート、レントゲン写真からの治療計画立案・レントゲン像からの歯周組織の模式図の作成、キュレットのシャープニング、根分岐部病変の処置、歯周疾患の病状説明、歯周外科の必要性の説明の8種の課題が回答されていた(表9)。

表1 歯周病学基礎実習の内容

n=26校

	歯周組織診査	ペリオチャート判断・レントゲン診断	細菌検査	口腔内写真撮影	ブラッシング指導	スケーリング	歯周外科	咬合調整	暫間固定	PMTC
実施している	25	20	4	4	23	26	21	14	24	3
実施していない	1	6	22	22	3	0	5	12	2	23

表2 歯周組織診査実習の内容

	ポケット測定	CAL測定	動揺度測定	付着歯肉測定	コンタクト測定
実施している	24	14	18	11	7
実施していない	1	11	7	14	18

その他の項目:BOP(3)、分岐部病変の診査(5)、歯石沈着の診査(2)、スタディーモデル採取(1)、ペリオトロンの使用法(1)

未回答1校

表3 ペリオチャート判断・レントゲン診断実習内容

レントゲン読影・スケッチ	14
口腔内写真判断	2
ペリオチャート判断	2
治療計画立案	5
その他・不明	2

(重複回答を含む)

表4 細菌検査実習内訳

ELISA	1
Periocheck	1
位相差顕微鏡	1
その他・不明	1

考 察

基礎実習の開始時期は、4年次が最も多く、次いで5年次、3年次という結果となった。4年次までに CBT, OSCE を終了し、5年次4月から臨床予備実習を開始するようなカリキュラムの変更を見据え、開始時期は

今後半年位前倒しになって行くことが予想される。5年次の初めから臨床実習を開始するためには、最終的には、4年次終了時には基礎実習が終了しているのが適切ではないかと考えられる。実習の回数に関しては、2回から23回までと幅広く、また時間数に関しても、2時間から65時間ときわめて広く、平均では34.5時間だった。1回の実習時間は、90分から360分の間

表5 ブラッシング指導実習内訳

	染め出し	ブラッシング指導	歯間ブラシ	フロス
実施している	23	23	15	16
実施していない	0	0	8	7

使用しているIndex
(重複回答を含む)

O'LearyのPCR	19
OHI	4
PII	2
その他・不明	2

未回答 3校

表6 スケーリング・ルートプレーニング実習内訳

n=26校

	模型実習	学生相互実習	患者実習	シャープニング
実施している	25	8	4	14
実施していない	1	18	22	12

にあり、180分とするものが17校と大半を占めていた。これは、各大学のカリキュラムの差に起因していると考えられるが、最低限の歯周病学的な事柄を教育するには、今回のアンケート結果と鈴木ら²²⁾の報告を考慮すると、平均値以上の回数、時間数、実習時間は必要になるのではないと思われる。歯周病学実習に携わるインストラクターが担当する学生数は、教育機関によって様々であるが、最頻値として、インストラクター一人あたり5名から9名とする大学が多く、ま

た単一のピークを示している。これは各大学の学生数を考慮してインストラクター数を決定する上で参考にできると思われた。実習の内容としては、過半数の大学が実施している実習の項目は、歯周組織診査、チャート判断(歯周組織診査結果を記入した歯周チャートより歯周病の病状説明を行う)、レントゲン診断、ブラッシング指導、スケーリング、歯周外科、咬合調整、暫間固定であった。これらは多くの大学において、重要性が高く、歯周治療を行う際に効果的であると考えら

表7 歯周外科処置の内訳

	ポケット掻爬術	歯肉切除術	ENJO	フラップ手術	根尖側移動術	遊離歯肉移植術	ディスタルウェッジ	ヘミヤクシヨン
実施している	4	13	2	20	2	13	1	2
実施していない	16	7	18	0	18	7	19	18

実習のスタイル

模型実習のみ	14
ブタ顎骨実習のみ	2
両者実施	5

未回答 5校

表8 OSCE での歯周病関連課題

ブラッシング指導	18
スケーリング・ルートプレーニング	10
歯周病の病状説明・医療面接	8
歯周組織の診査	3
歯周外科・縫合法	1
器具の選択	1

(重複回答を含む)

表9 国家試験での実地試験への歯周病関連課題の提案

スケーリング・ルートプレーニング	13
歯周組織の診査	3
歯周外科の基本的な手技	3
歯垢染色チャート作成	1
歯周外科時の器具選択	1
ペリオチャート、レントゲンからの治療計画立案	1
レントゲン写真からの歯周組織の模式図作成	1
キュレットのシャープニング	1
根分岐部病変の処置	1
歯周疾患の病状説明	1
歯周外科の必要性の説明	1

(重複回答を含む)

れている実習内容であると思われる。

アンケート調査当時は OSCE トライアル期間であり、各大学で独自に行っていた OSCE 課題としては、ブラッシング指導が最も多く、次いで、スケーリング・ルートプレーニングであった。歯周外科、器具の選択を挙げた大学もあったが、器材準備や評価の困難さのためか、これらの課題に取り組む大学は調査時点では 1 大学であった。トライアル期間ということもあり、各大学で試行錯誤していたと考えられるが、OSCE における歯周病学の課題は、今後の歯周病学における OSCE のための学生への指導の方向性を示すものであり、非常に重要性が高いと考えられる。平成 15、16 年度の課題では、ブラッシング指導、スケーリング・ルートプレーニングが多かったが、本格実施されてからの歯周病学の課題傾向としては、歯周病の病状説明がブラッシング指導に重点が置かれている。

近い将来、実施が検討されている国家試験での実地試験の課題に関しては、スケーリング・ルートプレーニングが最も多く、次いで、歯周組織診査と歯周外科の基本的な手技が提案されていた。他にも、興味ある課題がいくつか回答されていた(表 9)。「歯科医師国家試験の技術評価に関する検討会」からの要望としては、(1)一時間以内で作業が終えるもの、(2)評価は簡

単にできるもの、(3)評価が短時間(約 1 分)で行えるもの、が挙げられているが、実際に歯周病関連の実習課題でこれらの要件を満たすものを選択可能な数だけ用意し、しかも実施のための器材や施設、評価基準を標準化することは多くの課題を克服しなければ達成できないものと思われる。また、歯周病は慢性疾患モデルとして種々の治療行為が存在し、連綿と続く治療の一部だけを取り出して技術評価する意味についても今後検討する必要があると思われる。

日本歯周病学会教育委員会としては、今回の結果を踏まえ、将来的には歯周病学基礎実習、ならびに OSCE の指導項目に対して、学生への指導項目の基準となる指針を作成していく予定である。

謝 辞

稿を終えるにあたり、多大なご協力を戴きました全国 29 大学歯学部・歯科大学の歯周病学を担当する日本歯周病学会理事の先生方に深く感謝の意を表します。

本研究の遂行に対し、アンケート結果を集計しまとめて下さった九州歯科大学歯周病制御再建学分野、横田 誠教授並びに教室員各位に心より御礼申し上げます。

学会発表

本論文の要旨は、第23回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(平成16年7月1日)、第49回秋季日本歯周病学会学術大会(平成18年10月20日)において発表した。

文 献

- 1) 中島功, 浅里仁, 片岡竜太, 伊佐津克彦, 内海明美, 須澤徹夫, 馬谷原光織, 中村史郎, 長谷川篤司, 木村裕一, 佐藤裕二, 岡野友宏, 宮崎隆, 中村雅典: 電子メールならびに専用ホームページを活用した昭和大学歯学部 の PBL テュートリアル. 日歯教誌, 22:161-169, 2006.
- 2) 岡野友宏: 【歯科医学教育白書 2005 年版(2003 ~ 2005 年)】 新しい歯科医学教育 歯学教育における PBL テュートリアル の 現況. 日歯教誌, 別冊:94-97, 2006.
- 3) 小野和宏, 大内章嗣, 魚島勝美, 林孝文, 西山秀昌, 安島久雄, 小林正治, 瀬尾憲司, 齋藤功, 山田好秋, 前田健康: 歯科医学教育への PBL テュートリアル の 導入 新潟大学歯学部の試み. 日歯教誌, 22:58-71, 2006.
- 4) 葛城啓彰, 五十嵐勝, 長田敬五, 影山幾男, 関本恒夫, 藤井一維, 水谷太尊, 宮川行男, 渡邊文彦, 村上俊樹, 中原泉: 日本歯科大学新潟歯学部における PBL テュートリアル の 導入. 日歯教誌, 21:279-291, 2005.
- 5) 葛城啓彰: PBL テュートリアル学習の現行カリキュラムへの導入の試み. 日歯教誌, 20:85-91, 2004.
- 6) Morio Ikuko, Tsuruta Jun, Araki Kouji, Eto Kazuhiro: Core Educational Objectives in Undergraduate Dental Education: Comparison between Japanese Model Core Curriculum and Core Competences in Europe. Dentistry in Japan, 42: 172-176, 2006.
- 7) 俣木志朗, 荒木孝二: 【歯科医学教育白書 2005 年版(2003 ~ 2005 年)】 新しい歯科医学教育 共用試験としての CBT, OSCE. 日歯教誌, 別冊教育白書 2005: 105-110, 2006.
- 8) 長岡英一: 【歯科医学教育白書 2005 年版(2003 ~ 2005 年)】 新しい歯科医学教育 CBT, OSCE の 授業への活用. 日歯教誌, 別冊教育白書 2005:98-104, 2006.
- 9) 河田英司, 佐野 司, 一戸達也, 小田 豊, 石井拓男, 井出吉信: 本学総合学力試験と共用試験 CBT の比較. 日歯教誌, 22:23-26, 2006.
- 10) 長谷川優, 末高武彦, 石井瑞樹, 藤井一維, 宇野清博, 関本恒夫, 中原 泉: 歯科医師の性格特性と態度・技能の関係について 臨床研修歯科医師修了時 OSCE の成績と, YG 性格検査結果の関係をもとに. 日歯教誌, 22:133-137, 2006.
- 11) 山崎信也, 鎌田政善, 齋藤高弘, 鈴木康生, 高橋和裕, 清野和夫, 山崎章, 天野義和, 新田敏正: 本学歯学部内で施行した CBT と OSCE の成績の分布と 相関. 日歯教誌, 21:47-50, 2005.
- 12) 多和田泰之, 村田容子, 五十嵐勝, 宇野清博, 関本恒夫, 村上俊樹, 東理十三雄, 中原 泉: OSCE 運営 システム の 開発 と 試験 運用. 日歯教誌, 21:260-271, 2005.
- 13) 江藤一洋, 森尾郁子: 歯科医学教育の国内標準化と国際化への対応. 日歯教誌, 21:219-224, 2005.
- 14) 菅沼岳史, 角田左武郎, 長谷川篤司, 木村裕一, 宮下 元, 天野 均, 塚崎弘明, 五島衣子, 岡野友宏, 佐野 司: 客観的臨床能力試験(OSCE)における評価の一致度について. 日歯教誌, 21:3-9, 2005.
- 15) 角田 晃, 井上 聡, 今井崇隆, 大石ゆかり, 川上正人, 木本茂成, 窪田光慶, 菅谷 彰, 高木 忍, 田口 長, 塗々木和男, 林田丞太, 根岸秀幸, 森啓, 高垣裕子, 荒川秀樹, 瑞穂冬樹: 客観的臨床能力試験(OSCE)の繰り返し実施による教育効果. 日歯教誌, 20:150-156, 2004.
- 16) 田口則宏, 小川哲次, 笹原妃佐子, 白井憲一, 吉野宏, 谷 亮治, 島末 洋, 田地 豪, 安部倉 仁, 田中榮二, 天野秀昭, 田口 明, 寶田 貫, 名原行徳, 小川郁子: 卒後臨床研修の総括的評価における OSCE の可能性. 日歯教誌, 20:127-134, 2004.
- 17) 荒木孝二: 歯学教育における共用試験. 口病誌, 70:215-217, 2003.
- 18) 田口則宏, 小川哲次, 森下真行, 富士谷盛興, 吉野宏, 谷 亮治, 伊藤良明, 田地 豪, 玉本光弘, 渡邊峰朗, 海原康孝, 田口 明, 寶田 貫: 総合歯科医療研修における OSCE の標準化 研修前期, 中期, 後期における到達度の推移. 日歯教誌, 18:239-247, 2003.
- 19) 道 健一, 荒木孝二, 毛利 環: 【モデル・コア・カリキュラムと共用試験】 共用試験(CBT)について. 日歯教誌, 18:47-56, 2002.
- 20) 俣木志朗: 【モデル・コア・カリキュラムと共用試験】 共用試験 OSCE について. 日歯教誌, 18:57-63, 2002.
- 21) 田口則宏, 小川哲次, 笹原妃佐子, 富士谷盛興, 谷亮治, 伊藤良明, 田地 豪, 玉本光弘, 田中榮二, 石川隆義, 田口 明, 寶田 貫, 赤川安正: 総合歯科医療研修評価における OSCE の導入. 日歯教誌, 17:386-394, 2002.
- 22) 鈴木丈一郎, 長野孝俊, 金指幹元, 湯浅茂平, 柳澤隆, 五味一博, 新井 高: マルチメディアを活用した歯周治療学基礎実習から抽出された問題点. 日歯教誌, 22:90-95, 2006.